

東京 IPO 特別コラム

2016年7月12日 Vol.34

参院選の終了でスッキリ感が出た株式相場にLINE登場

ブリグジットショックで揺さぶられた株式相場が参院選の終了とともに一気に反転上昇を見せてきました。日経平均は2日間で15100円からおよそ1000円幅の上昇を見せ徐々に明るさを取り戻しています。昨年6月の高値20952円から丁度1年を経て、6月24日に14864円でボトムを打ち、スッキリ感が始まったように思われますが、皆様はどうお感じでしょうか。とはいえ、まだまだ病み上がりの状態。為替相場に影響を受けやすく、上がってくると戻り待ちの売りが待ち構えているようにも見えます。どこまでの戻り相場がまずは実現するのかを皆様とともに見守ることにしたいと思います。

こうした局面で今週はいよいよ週末15日にLINE（3938・東証1部）が上場を予定しており、関心が高まりつつあります。スマホを持っている人ならLINEのことを知らない人はいないだろうから今更、事業内容について解説するまでもないでしょうが、今年に入って最大のIPOであり、公開価格3300円で計算した時価総額は6929億円にも達している点で既に驚きです。今期の業績は第1四半期まで出ていますが、売上高334億円に対して営業利益は53億円。単純にこれらを4倍すると売上高1340億円、営業利益210億円となりますが、四半期ごとに伸びていくとすれば、もう少しスケールは大きくなります。この利益水準で公開価格を前提にした時価総額を評価すると既に割高感があります。しかも同社は韓国NAVER社を親会社に持つ企業で日本人投資家から見るとやや違和感があります。公開価格をベースに初値を占うにしているかどうかは評価が分かれるところです。SNS、スマホゲームのミクシィ（2121・東証マザーズ）が比較対象にされやすいですが、今期の経常利益800億円に対して時価総額は約3700億円に留まっており、LINEの上場でミクシィ株を刺激する可能性の方が高いのかも知れません。

既に上場時の公開株4025万株は投資家の手元にあり、1328億円を市場から吸い取ってしまいました。LINEの上場が市場にプラスと働くのかネガティブに働くのかは未知数ながら、相場全体がようやく明るさを取り戻してきただけに、この上場が好影響してくれることを祈ります。今年の前半は40銘柄で折り返したIPO市場ですが後半の大物株がどうなるのか、皆様とともに関心をもって見守りたいと思います。

（東京 IPO コラムニスト 松尾範久）